

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】
H I V検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究
(分担)研究報告書

性産業に従事する MSM とトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨

研究分担者 : 今村 顕史 (がん・感染症センター都立駒込病院)
研究協力者 : 砂川 秀樹 (明治学院大学国際平和研究所)
生島 嗣 (特定非営利活動法人ふれいす東京)
荒木 順子 (特定非営利活動法人 akta)
カエベタ 亜矢 (新宿区保健所 保健予防課)
堅多 敦子 (東京都福祉保健局健康安全部エイズ・新興感染症担当課)

研究要旨

本研究は、これまで十分に調査されることのなかった、男性同性間で金銭の授受も伴い性行為を行う層、トランス女性で金銭の授受も伴い性行為を行なう層を対象として、その健康リスクをいかに下げているかという視点を基に、HIV/STI のリスクとそれに伴う受験行動などについて、本年度を含めて 3 年間かけて調査研究するものである。これは、具体的には、彼ら彼女らがどのように HIV や STI の感染リスクを経験しているのか、そのリスクを下げることの妨げとなっている要因があるとするなら、それはどのようなものか、またリスクを経験した時に、HIV/STI 検査やそれも含めた医療ケアの診察へのアクセスの状況はどうなっているのか、そのアクセスのハードルとなっているものは何かを調査するものである。そして、それらの研究を経て、彼ら彼女らの健康リスクを下げていくための情報提供のあり方などを提言していく。

初年度である本年度は、それらの調査や提言を進めていくための予備調査として、MSM セックスワーカー (MSM-SW) を対象に、1. 先行研究レビュー ; それらの層について明らかにされてきたことの確認、2. 形態の把握と分類 ; どのような形態によって金銭の授受を伴う性行為が行われているかの分析を行なった。2 に関しては、インターネット上で MSM-SW の店の調査と、4 人に対する予備的なインタビュー調査に基づいて提示しており、今後さらに精緻化していく。尚、トランス女性に関しては手法等に関して時間をかけた、より慎重な検討が必要であることから、次年度に、トランス女性のセックスワーカーの問題に取り組んできた人たちの意見を聴取し進める予定である。

先行研究レビューからもインターネット上、及びインタビュー調査からも、MSM-SW の形態の多様性は明らかである。MSM-SW のセックスワークの形態について、経営の型、移動の型、性行為内容の三つの軸によって分類を試みた。経営の型というならば、「職業的ではない、流動・暫時的に個人交渉型」で SW をおこなっている人が、もっとも健康リスクに晒されている可能性が推察された。また、様々な MSM-SW に対する実情の把握や健康リスク低減のためのアプローチは、それぞれに異なった形が必要であり、今後の十分に検討していかねばならない。尚、今回の調査ではアダルトビデオ業界と SW 業界との連続性も判っている。これは、単にそれらの業界の連続性を見るということだけでなく、MSM-SW のネットワークの形成の指摘でもあり、今後の調査や健康リスク低減のアプローチのあり方を検討する上で重要である。

MSM-SW やトランス女性-SW へのアプローチには、その問題に取り組んできた当事者・支援者団体・或いは個人との連携が不可避であり、今後、その連携も進めていく予定である。

A. 研究目的

男性とセックスをする男性（MSM; Men who have Sex with Men）が、HIV や STI のリスクに最も晒されている層に属していることは、世界的に見ても疑う余地が無い。日本でも、男性同性間の性行為による感染は、2008 年をピークに横ばいが続いているものの、2016 年の年間報告で、感染者報告数の 72.7% を占め、患者数ではその割合は少し落ちるものの、やはり 55.1% を占める。

また、トランスジェンダー女性（出生時に男性と振り分けられたが、性自認が女性であるなどして女性として生活する人、以下「トランス女性」）も同様に、あるいは MSM 以上に、HIV/STI リスクを負っていることは、海外の研究や HIV/AIDS に関する現場から指摘されてきた。

しかし、一方のトランス女性は、人口全体に占める割合が少ないがゆえに顕在化しづらい。更に、性別変更しない場合は男性として、変更した場合は女性として統計処理され、トランス女性としては把握されないことから、トランス女性の HIV 感染の状況は明白ではない。

そして、これまで、アクセスの難しさなどから、トランス女性向けの啓発や調査がほとんど行なわれてこなかった背景もあり、性行為に関してどのような状態におかれ、どのような環境や力関係などのもとでリスクに晒されているかの検討は十分に行なわれていない。

MSM に関しては、日本においても、厚生労働省科学研究費補助金によるエイズ対策研究事業などの中で、ゲイ/バイセクシュアル男性のコミュニティを中心とした調査や啓発活動が行なわれてきたことにより、実態把握と啓発のための仕組みづくりは継続されてきた。

しかし、その中のサブグループと位置づけられる、「男性同性間の性産業に従事する人たちなど、金銭の授受も伴う性行為を行なう層」に関しては、調査としても啓発としても、特別に対象化されアプローチされることはなかった。だが海外での研究では、下記の文献レビューの結果で触れるよう

に、その層における HIV や STI の感染率が高いという研究報告も出されており、日本でも同様に、健康被害のリスクに曝されている可能性は高い。

なお、日本のトランス女性のセックスワーカーに関する調査としては、セックスワーカーの当事者と支援者からなるアドボカシー団体などの協力により行なわれた東優子らによるものがある。その研究においては、HIV 感染リスクなどのリスク要因は明確に検証されてはいないものの、トランスジェンダーの人たちの生き辛さを指摘しながら、リスク要因に引き続き注視していく必要性が指摘されている。1)

よって、本研究は 3 年間の研究の中で、これまで十分に調査されることのなかった、男性同性間で金銭の授受を伴う性行為もおこなう層、トランス女性で金銭の授受を伴う性行為も行なう層を対象として、その健康リスクをいかに下げたいかという視点を基に、HIV/STI のリスクとそれに伴う受験行動などについて調査研究するものである。それは、具体的には、彼ら彼女らがどのように HIV や STI の感染リスクを経験しているのか、そのリスクを下げることの妨げとなっている要因があるとするなら、それはどのようなものか、またリスクを経験した時に、HIV/STI 検査やそれも含めた医療ケアの診察へのアクセスの状況はどうなっているのか、そのアクセスのハードルとなっているものは何かを調査するものである。そして、それらの研究を経て、彼ら彼女らの健康リスクを下げていくための情報提供のあり方などを提言していく予定である。

次年度以降、質的調査（インタビュー調査）と量的調査（質問紙調査）を実施していく予定だが、まず、この初年度は、それらの調査や提言を進めていくための予備調査として、1. 先行研究レビュー：それらの層について明らかにされてきたことの確認、2. 形態の把握と分類：どのような形態によって金銭の授受を伴う性行為が行なわれているかの分析、を行った。なお、これまで HIV/AIDS の啓発や調査が行われてきた MSM 層に対して、ト

ランス女性に関しては手法等に関して時間をかけた、より慎重な検討が必要であることから、次年度に、トランス女性のセックスワーカーの問題に取り組んできた人たちの意見を聴取し進めていく。

ここで、対象層に関する用語について説明をおこなっておきたい。本研究班の表題では、対象層を「性産業の事業者および従事者」と表現しているが、後に記すように、先行研究レビューや現状把握のための予備調査を進める中で、現在、金銭の授受を伴う性行為は、「性<産業>」という名称では包括できなくなっている面がある。

恐らく、もともと多様であったものが、インターネットの利用が増える中で、いっそう個人的、暫時的なやりとりの中でおこなわれる形へと移行している。

そのような個人的、暫時的な形での金銭の授受を伴う性行為を含めて、近年、英語では transactional sex（取引的＝金銭のやりとりのあるセックス）と表現することが多くなっている。また、そのような人たちは、セックスワーカー（あるいは、日本でいうところの「売り専」など、それを意味するゲイ／バイセクシュアルコミュニティでの呼称）としての自己意識を保持していないことが傾向を持つことも指摘されている。更に、このように様々な形態が存在する中で、どの領域を切り取るかも難しい課題である。しかし、それらの複雑さの理解と把握こそ、今後、この対象層に対する調査や啓発をおこなっていく際に極めて重要なポイントとなるものと思われる。

そのために、今後、どのような呼称でどのような層を包括するのも検討していく必要がある。しかし今回、論を進めるにあたって、これまでの研究にならい、様々な形で「男性同性間で金銭の授受を伴い性行為もおこなう行為」を基本的に SW（sex work の略語として）と記述し、その経験のある層を「MSM-SW」と記す。だが、それらは「sex work」という表現には合致しづらい形態のものや、アイデンティティも多様な人たちを包括する、便

宜的な仮の名称であることを強調しておきたい。尚、特に職業的にセックスワークに従事している人を特定して指す場合にはカタカナで「セックスワーカー」と記述する。

B. 研究方法

1. 先行研究レビュー

英語の医療系論文のデータベースにおいて、「MSM HIV」あるいは「Transgender HIV」と、「sex work」か「transactional sex」という語をかけた合わせた検索により論文を抽出し、過去5年間のものから参考になるテーマのものを選択した。

2. 形態の把握と分類

(1) インターネット上の調査

ゲイ向けインターネット情報サイト「G」（仮名）に「売り専・出張」「マッサージ」のカテゴリーで登録されている都内の店を地域ごとに検索し、それらすべての店のサイトをチェックした。その際、現在サイトが運営されていない店舗は閉鎖しているものとしてリストから除いた。

なお、現在はTwitterで宣伝する個人も多いが、Twitterを主たる宣伝媒体とする個人を把握し、いかに分析の対象とするかは来年度の課題としたい。

(2) インタビュー調査（予備調査）

本研究の初年度の調査においては、MSM-SWだけでなく、利用経験者なども含め、様々な立場の人にインタビューを行なう予定であったが、初年度の研究承認時期の問題もあり十分な調査を行うことはできなかった。しかし、フォーマルインタビューを1名（30代後半：アダルトビデオ出演者）、インフォーマルなインタビューを3名（50代前半：マッサージ利用客／30代前半：SW経験者／40代後半：SW利用客）に実施できたことから、それらを（1）の情報を基にした、MSMのSWの種別

の分類分析の補完情報とすると共に、今後のより本格的なインタビュー調査及びアンケート調査の予備調査として位置づける。

尚、フォーマルインタビューは半構造化面接でおこない IC レコーダーに録音したが、インフォーマルなインタビューは研究への協力への同意を得たものの、録音はせず断片的な情報提供を得た程度である。今後、その人たちに改めてフォーマルインタビューをおこなう予定である。

C. 研究結果

1. 先行研究レビュー

世界的に、特に先進国を中心として、MSM が HIV 感染リスクに最も曝されていることは、AIDS が最初に報告された時から現在にいたるまで、感染者数の報告状況からも明らかである。一方、トランス女性は、感染報告の統計としては把握されることが難しい。だが、トランス女性を対象とした HIV/STI に関連する調査では、どの国や地域における調査も、大きなリスクに晒されていることが明らかになっている。2)-5) しかも、MSM との比較では MSM よりもより感染リスクが高い報告もある。6), 7) そして、そのリスクの背景として、暴力を受けやすいこと、社会的な差別偏見に晒されていること、またパートナーの異性愛男性が主導権を握る傾向にあることが挙げられており、トランス女性の HIV/STI 感染リスクと社会的な位置づけ、パートナーとのジェンダー的な力関係が無視できないことが明らかにされている。

MSM-SW に関しては、SW をしたことのない MSM との HIV 陽性率を比較した調査においては、MSM-SW の陽性率が高いとする報告 8), 9) と、変わらないとする報告 10) とがある。

その結果を受け、Catherine E. Oldenburg ら 11) は、MSM-SW とそうではない MSM の HIV 陽性率を比較した 33 の調査のメタ分析を行なった。その結果、総合してみると、MSM-SW の HIV の陽性率は、他の MSM より高まると結論を出している。

(尚、Oldenburg らは、transactional sex という言葉を用い MSM-TS と表現している)。

しかし、このメタ分析で対象となった調査が行なわれた地域は、東南アジア (ラオス、インドネシア、タイ、ベトナム)、東アジア (中国)、ラテンアメリカ (アルゼンチン、エクアドル、エルサルバドル、ペルー)、サハラ以南アフリカ (ケニア、セネガル、南アフリカ、ウガンダ)、北アメリカ (アメリカ合衆国)、中東 (イスラエル) の、7つの地域 17 カ国にわたっているが、地域別に分析すると、ラテンアメリカとサハラ以南アフリカだけが、統計的に優位に陽性率が高いという結果となっている。

この地域による違いについて、Oldenburg らは、それぞれの地域や国全体における HIV の感染拡大の程度や層との関連が指摘しながらも、SW (論文中は TS) の定義の違いと、それにより調査に含まれる対象者の多様さに影響を挙げている。

タイの調査では、これまでに SW をしたことがある、あるいは過去 12 ヶ月において SW をしたことがある MSM においては、HIV 感染率は有意に高くなっていたが、「(職業的な) セックスワーカー」の間では感染率が下がる傾向にあった。

また、中国の調査でも似たような結果が出ており、「セックスワーカー」では統計的優位に HIV 感染率が下がっていた。更に、過去 12 ヶ月の SW の経験と定義した場合、SW と HIV 感染率に関係は見られなかった。

他の中国の調査では、「セックスワーカー」のほうが SW の経験のない人よりコンドームの使用率が高いという結果も出ており、HIV 感染リスクの認識に違いがあるのではないかと、Oldenburg らは指摘している。

しかし、この論文の中でも指摘されているが、このメタ分析はその性質上、HIV 感染が SW の開始された後に起こったのか、開始される前にあったのか、という点は明らかにできない (感染後に貧困状態に陥り SW を始めた可能性も考えられる)。また、MSM-SW として括られても、ストリートで客

を見つけるのか、インターネットを通じて見つけるのかといった違いによる、HIV 感染に対するヴァルネラビリティの違いも示すことができないという限界がある。

これらの指摘からも、MSM-SW 中の多様性は、この層の健康リスクについて考える上で重要な視点となっている。

米国でのある研究では、MSM-SW が客と出会うために用いる二つの異なるインターネットサイトの比較調査も行われ、その差異も指摘されている。12) その調査によると、一方のサイトが他方のサイトよりも、フルタイムで SW をおこなっている率が低く、最後の客とのアナルインターコースの率が低く、過去 30 日間での客の数も少なかった結果が出ており、このサイトの利用者は、経済的には他方のサイトの利用者よりも不利であるにも拘わらず、アナルインターコースやコンドームなしのアナルインターコースをおこなう率が低かったという。

そしてまた、インターネットの普及以降、MSM-SW のあり方の変化も指摘されており、MSM-SW にアプローチする上で十分に考慮しなければならない。

オーストラリアの研究では、MSM-SW が客と出会う場がインターネットへ移行した結果、SW に関するリスクのマネージメントが社会的なコントロールから、クライアントと MSM-SW のオンライン・コミュニティ (communities) 内でインフォーマルにおこなわれるやりとり (practices) へと移行していることが指摘されている。13) また、インターネットを通して MSM-SW が多様な地域で顕在化し、異性愛者の男性や女性が新しいクライアントとなりつつあるという。14)

そして、オランダの調査では、女性とのセックスだけでなく、他の MSM-SW とのセックスがあることも指摘されており 15)、さらに、中国の調査では、セックスワーカーとして従事する人は、そうでない人よりクライアントとしての経験を持っていることが多い、という結果も出ている。16)

MSM-SW としての多様性だけではなく、SW の現場に限らず相手との関係性の多様性も視野に入れる必要があるだろう。

また、これまで、MSM-SW において必ずしも SW がリスクの原因ではないこと 17)、顧客とより親密なパートナーとの関係でのほうがコンドームの使用率が下がること 18)、などの報告も出されている。よって、MSM-SW を対象層としても、その健康リスクを考えるときには、SW だけで捉えない視点が重要である。さらには、SW を行なっているからと言って、かならずしもセックスワーカーとしてのアイデンティティがある訳でもなく 19)、調査や啓発を行なっていくときの対象設定や呼びかけ方などには十分な注意が必要である。

そして、MSM-SW の健康リスクの低減ということ意識するならば、様々な関係における予防行動だけでなく、HIV/STI の感染の可能性があった時に、如何に検査を含めた医療サービスにアクセスできるかということが重要な課題となる。

米国の調査では、MSM-SW は、HIV 検査の率は高かったものの、他の STI の検査は低く、加入保険でカバーできる範囲が小さく、プライマリーケア、薬物に関する治療、メンタルヘルスのサービスなどのヘルスケアのニーズにうまく合致していなかったという研究結果が出ている。20) また、同じ MSM でも、セックスワーカーとそうではない人とは、セックスワーカーのほうが、MSM であるということよりも、様々な問題 (ホームレス状態にあることや、薬物の問題、貧困など) を理由とした医療に対する不信感を持ち、差別的な対応を受けたことを報告している。更に、セックスワーカーではない MSM のほうが、自分の性行動についてより話す傾向にあり、これらの違いが PrEP を含めた医療サービスへのアクセスの違いを生む可能性をはらんでいることが指摘されている。21)

これらの先行研究は、MSM-SW が、安心して受診できる医療現場づくり、そしてそれらのリソースの情報提供の必要性を示していると言えるだろ

う。さらに、MSM 全体でも課題となっている問題でもあるが、MSM-SW におけるアルコールや薬物の問題 (22)-24)、親密なパートナーからの暴力の問題 (25)-26) など指摘されており、単に医療的な検査を受けるだけでなく、MSM-SW が自分の抱える問題を語れる相談先も求められている。

2. 形態の把握と分類

(1) インターネット上の調査

・店と地域

ゲイ／バイセクシュアル男性向けインターネット情報サイト「G」(仮名) に登録されている、東京都内の地域別性産業の数は下記の通りである。「売り専・出張」および「マッサージ」というカテゴリ分けは、同ページによるものである。

	売り専・出張	マッサージ	総数
新宿 二丁目	28 (21)	24 (18)	52 (39)
上野	3 (1)	17 (17)	20 (18)
浅草	0	8 (6)	8 (6)
渋谷	4 (3)	5 (5)	9 (8)
新橋	1 (1)	3 (3)	4 (4)
総数	36 (26)	57 (49)	93 (75)

表 1 : () は「店舗有型」の数

なお同ページでの地域名は必ずしも、その店の存在地ではない。ここで挙げられている地名は、東京においてゲイバーなどが多く集まっている代表的な町の名称であり、厳密な住所としてはどの地域名にも属さない場合は、それぞれ近い地域に含まれている。

なお、新宿エリアは、同ページでは「新宿二丁目」と記されているが、歌舞伎町に存在する店舗も少ないながらもその地域に分類されていた。しかし、歌舞伎町と新宿二丁目は、MSM (特にゲイ／バイセクシュアル男性) にとっては、持つ意味

が全く異なる地域であり、経営の背景や主たる客層が異なる可能性もある。よって、ここでは「新宿」とした。

また、それぞれの地域は、MSM においては、集まる人たちの年代など、特定のイメージがあり、これらの店舗も地域ごとに店で働いている人たちのイメージと関連を持っていることが、それぞれの店のサイトからも窺える。特に、上野・浅草はサービス提供者が「中高年」であるという特徴を持っており、また客層も同じ傾向を持つことも考えられる。

・種別名と呼称

「売り専・出張」「マッサージ」は、同情報サイトによる分類名であり、それぞれの店が登録する際に選択する形式となっている。しかし、実際に一つ一つの店の案内文やサイトを調べてみると、それらの区分は明確にはなっていない。

「売り専」という言葉は、もともとは、MSM の間では、狭義では、以下のものを指す傾向にある。(1) 店内にスタッフが待機し、そこに客が来て指名し共に外出するか (その場合、必ずしも性行為が伴うとは限らない)、あるいは、独自に持っている個室を利用し性行為をおこなう店 (2) それらの店で働く人。しかし、広い意味では、個人レベルでのやりとりも含めて、金銭の授受を伴って性行為をすること、またそれをおこなう人を指すこともある。

「売り専」という言葉は、MSM の間では金銭の授受を伴うセックスをめぐって最も頻繁に用いられる語であり、スティグマも含めて様々な象徴性も持つ。そのため、その語の持つ意味についての分析も必要であるが、店、人、行為すべてを指すなど、意味が流動であることから、今回の研究テーマの、店の性質の把握や分類には適しない。よって、ここでは違う観点から分類分析を加えていく。ただし、インタビューなどの語りに出てきた場合には、その語を用い、それが具体的に何を指しているかを明示する。

また、マッサージという分類も、性的なサービスを伴わない店から、インターコースまで想定されている店まで含まれており、別の観点からの分類分析が必要である。これらの分類分析は、それぞれの店のサイトの情報だけではなく、次のインタビューの内容も含めて考察においておこなう。

(2) インタビュー調査（予備調査）

・Aさん

フォーマルインタビューのインタビューーAさんは、30代後半のゲイであり、企業で働く傍ら、アダルトビデオ（AV）に出演しており、インタビューの段階で、性的なサービスも提供する「マッサージ」のスタッフの募集へ応募していた。

もともと本研究では、AV業界は、調査対象として視野に入れていなかったが、Aさんによると、「売り専」とAV業界は密接な関係にあり、「売り専」で働く人がリクルートされてAVに出ることは非常に多く、また、その逆にAVに出たのちに、「売り専」で働き始める人もいることから、それらは切り離せないという（ここで言われている「売り専」とは、職業的にSWをしている人を指している）。実際に、サイト上の広告でも、AVに出ているスタッフがいることを強調している店も見られた。

Aさんによると、彼が出演しているAV会社はコンドーム使用に関しては、徹底して指導しているという。また彼自身は、PrEP（暴露前投与）を個人輸入によりおこなっている。そして、彼自身は、出演に際しHIVに関するステータスの確認等がないことに疑問感じており、業界全体として考えるべきことではないかと考えている。それは、挿入行為においてコンドームを使用し、挿入相手が変わるときにコンドームを変えるよう徹底しても、大人数による撮影の際には、手についた精液がコンドーム上などに付着するなどのことを懸念していることである。

また、彼は、知り合いの「売り専」で働く人が「ハッテン場」（MSMの人が集まり性行為をおこな

う場所）でコンドームなしのセックスをしていることにも触れている。先行研究の中でも指摘されていることだが、当然のことながら、MSM-SWの健康リスクを考える際に、SWの場だけに限定される問題ではない。

さらに、MSMのAV業界では、違う会社の作品に出ることは珍しくなく、会社によってはコンドームなしのセックスを強調することで差別化をはかり業績をあげる傾向もあり、「売り専」との重なりに関わらずAV出演者の健康リスクの問題も同時に視野に入れていく必要があるだろう。

そして、彼が応募していた「マッサージ」だが、その店は元々AVに出演していた人が経営しており、性的なサービスも提供しているという。ただし手袋も着用しての性的サービス提供する形で、HIV/STI 予防を徹底している。

・Bさん

このように、「マッサージ」としての営業名で、性的サービスをおこなう店は多いことが、インフォーマルなインタビューに応じてくれたBさん（50代前半）からも聞かれた。彼は、客として「20-30 軒ほどのゲイがやっているマッサージ店」の利用経験があるが、「自分が行ったことのある、ゲイがやっている『マッサージ』はたいがい『抜きあり』だった」と語っている。ちなみに、ここで言う「抜きあり」とは、客に射精をさせることを意味しており、性的なサービスが伴うことだ。ただし、彼は、「もちろんマッサージだけの店もあった」こと、自分は店のサイトを見て、「抜きありだろう」と思ったところを選んでアクセスした結果であることを強調している。また、「抜きあり」とは言っても、基本的に「マッサージ」は手によって射精させることがほとんどで、彼はこれまでの経験ではHIV/STIの感染リスクが高い行為が行なわれたことはないと言う。

・Cさん

MSM-SWとして20代前半の頃に3年ほど出張専

門のSWの仕事をしてきた経験のあるBさん（30代前半）も、仕事の中でコンドームなしのアナルインターコースはなかったという。

Bさんが勤めていた先では、管理者とは面接時に会うだけで、その後はメールのやりとりで仕事をおこなっていた。シフト表に応じて客が決まると、日時と場所を管理者からメールで受け取り、仕事の始まりと終わりにメールで報告し、管理者に支払うべき分を振り込む。

そこでは、最初の面接時に「必ずセーフですること、それに応じない客がいたら連絡すること」が通達されており、客側もそれを承知で申し込んでくることから、コンドームなしのアナルセックスに至ることはまずないという。3年間のうちで、それを求める客が2-3人いたが、それは断ったとBさんは語った。

そのときに断りづらくなかったかと尋ねたところ、「仕事だから！プライベートでは全然だけど」と答えた。プライベートでのセックスでは、相手任せだったという。彼にとっては、「仕事」という形が予防行動を支えたということになる。

・Dさん

一方、Dさん（40代後半）が語った、お金を支払っておこなったセックスの経験は、金銭の授受を伴うセックスの中でも、A～Cさんとは、違う現場を浮き彫りにしている。

Dさんは、4回、セックスに関連してお金を払ったことがあるが、職業的な意味でのセックスワークを利用したことがあるのは一回だけである。それは「マッサージ」だが、それに関しては、先のBさんと同様、やはり手による射精があっただけで、特にHIV/STIのリスクがある行為はなかった。

しかし、他の金銭を伴うセックスはそうではなかった。もともと、Dさんは、「barebacker」（アナルインターコースでもコンドームを基本的に使用しない人を指す言葉）を自称しており、インターネットでの書き込みにて、自分が被挿入側

として、barebackの相手を募集することが多いという。そして、そのようなやりとりの中で、セックスに金銭の授受が関係することが3回あり、それぞれ以下のような成り行きだったという。

・相手（20代）の家へ行き、コンドームなしの挿入と射精があったあとに、「いくらでもいいので、お金を貰えないか」と頼まれて2千円払った。

・自身が宿泊しているホテルの部屋に来た相手（40代）から、行為の前に「2千円貸して欲しい」と言われて、2千円お金を出したが、何もせずに帰ってもらった。

・自分の家に来てもらって、やはりコンドームなしの挿入と射精があったあとに、相手（30代）に「千円でいいのでお金を出して欲しい」と言われ千円を払った。

そして、掲示板にbarebackの相手の募集を出す、必ず、3-4人から、「サポでなら」という条件で連絡が来るといふ。また、毎回メールを送ってくる人も複数おり、その人たちは、掲示板にも毎日投稿しているとDさんは語る。「サポ」というのは、「サポート」の略でお金を提供することを意味する。ただし、彼は、「以前、コンドーム使用を条件に相手募集をおこなったときにもメール来たけれど」と語っており、同じ掲示板でのやりとりでの「取引的セックス」でも、当然ながら、HIV/STI感染予防行動をとった上で行なっている人たちもいる。

しかし、たった1人のわずか3回のケースだが、これらの、「セックスワーク」とは位置づけるには難しい、しかし金銭の授受を伴ったセックスの背景には、一部のMSMが経験している貧困がある可能性が見え隠れしている。そして、先行研究レビューで触れた、職業的なセックスワーカーより、そうではないSW経験者にHIV感染リスクが高いという研究結果とも合致している。

D. 考察

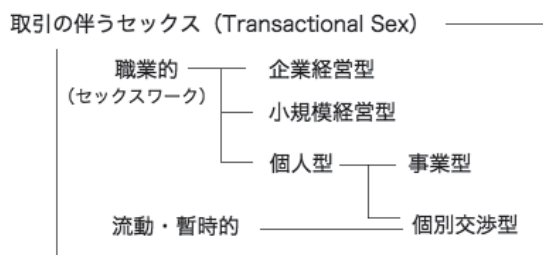
ゲイ／バイセクシュアル男性向けインターネット情報サイト「G」に基づく二つの分類「売り

専・出張」「マッサージ」が、実態把握の際には十分に機能しないことは、C. 結果において触れた通りである。

では、MSM-SW の HIV/AIDS の感染リスクに関する状況の把握や、健康リスクの低減を進めるためには、どのような軸での分類やそれによる性質の把握が考えられるか、上記の研究結果を総合的に参考にした上で考察したい。

そのためには、更なるフォーマルインタビュー調査を進めることが必須であるが、今回は、それぞれの店のサイトに掲載されている情報と、フォーマルインタビューとインタビューの内容を合わせて、三つの視点による分類を仮のものとして提示したい。その分類軸は、今後のインタビュー調査に基づいて検証、精緻化していく。

まず、SW の環境や性質を左右する大きな要因として経営の型による分類を挙げる。



ここでいう企業経営型というのは、幾つもの支店を持って経営している形態を指す。なかには、支店という形をとらずに、全く異なったコンセプトやイメージを提示して複数の店を経営している企業もある。それらの店では、数十人のスタッフを抱えている。一方、小規模経営型は、4-5人のスタッフを抱えて業務をおこなっている店舗のことを指す。個人型の事業型とは、一人でおこなっているものの店舗を構え、出張のみでおこなっているもの、サイトを立ち上げて安定的に事業を続けている所を指す。個人交渉型は、インターネットの掲示板などを通じて客を求め、掲示板にセックスの相手を募集している人に対してメールを送ることで営業している人のことである。

経営の型で分ける意味は、企業経営や小規模経

緯の場合、経営者の方針が従業員の仕事における性行動を方向付けるからである。また、客に対してもあらかじめ条件を提示することで、HIV/STI のリスクをコントロールすることが可能となる。

一方、個人型は、基本的には、自分自身で性行動の内容を決定できる。しかし、あらかじめインターネットサイトなどで、提供するサービスの内容を明示 (あるいは暗示) できる事業型と異なり、掲示板でのやりとりなどを通じて客を見つける個別交渉型は、客との力関係がどのように左右するかによって、行為の内容が大きく異なるであろう。

そして、D さんのインタビュー内容から、個別交渉型にも、職業的におこなっている人と、貧困ゆえに流動・暫時的におこなっている人がいることが浮かび上がっている。「貧困ゆえに流動・暫時的におこなっている」と考えるのは、D さんが出会った 3 人がいずれも、かなりの少額を、「できれば」或いは「貸して」という表現で求めていることだ。彼らは、困窮している状態を凌ぐために、リスク・テイキングをおこない、それにより金銭の授受を求めていることが推察される。

なお、今回、ストリートで客を求める MSM についてはインタビューできなかったが、その背景を考えると、彼らも流動・暫時的なタイプとして健康リスクに晒されている可能性がある。

2017 年におこなわれた、日本でゲイ向けの出会い系アプリを用いた調査 (N=6921) (27) では、「これまでにセックスをすることで金銭を受け取ったことがありますか?」という質問に対して、「過去 6 ヶ月間にあった」と回答している人が 4.1%、「6 ヶ月以上前にあった」と回答している人が 18.6%、合わせて 22.7% の人が経験ありと答えている。これだけの多くの人たちが、職業型セックスワーカーとして働いた経験を持つことは、考えることは難しいことから、流動・暫時的な形での MSM-SW 層の多さを示唆する結果と言えるだろう。

他の型の SW では、今回聞き取った範囲においては、リスクの高い行為の話はでなかったが、イ

ンタビューとインタビューの対象者が限られていたため、判断を下すことはできない。また、インターネット上での調査では、個人営業型でコンドームなしのインターコースを選択できるサービスを提供しているところもある。

ただし、「仕事である」という意識が、HIV/STIの予防行動を遂行することに結びついていることは、今後、MSM-SWの健康リスクを低減していくための方法を考えていく上で示唆的である。

また、職業的な型は、MSM-SWが仕事をする際の動き型をもとに、さらに次のように分類できる。

職業型				
店舗型		派遣型		無店舗
自前個室	外出	事務所経由	直行直帰	個人行動

店舗型の自前個室は、客が店舗に来訪し、その店の個室でサービスを提供する形式であり、「マッサージ」という名前を掲げている所には、そのような形式をとっていることが多い。

外出とは、バーの形式の店舗があり、そこにいる「ボーイ」を指名して連れ出すものであり、ゲイ/バイセクシュアルコミュニティで「売り専」というと狭義にはそのようなスタイルの店を指す傾向にある。外出が基本ながら、自前個室利用も可能という複合型もある。

派遣型は、インターネットを通じて客が指名する形だが、いったん事務所を経由して客のもとへ赴くタイプと、全く事務所などに寄らずに客のもとへ直行し、終了後も直帰するタイプがある。

これらの型の分類は、MSM-SW 個々人に、HIV/STI などの情報をどのように流通させるかを検討する場合に有効と思われる。

そして当然ながら、行われる性行為によっても、大きく次のように分けられる。

ヌキ有り		ヌキ無し
インターコース有	インターコース無	マッサージのみ

「ヌキ無し」はSWに含まれないと考えるのが通

常ではあるが、隣接領域であり、絶対に「ヌキ無し」から、場合によってはあるというところもあり、視野に入れておく必要があるだろう。

また、この分類の中では明示できなかったが、インフォーマルインタビューからは、AV業界が他のSWの領域との行き来があることが明らかになっている。今後、AV業界もSWの一つとして位置づけて考えていく必要がある。

E. 結論

先行研究においても指摘されてきたのと同様、日本においても、MSM-SWの形態の多様性は明らかである。その多様性の中にある様々なMSM-SWに対する実情の把握や健康リスク低減のためのアプローチは、それぞれに異なった形が必要となる。恐らく、その中でもっとも健康リスクに曝されているのは、個人交渉型でSWをおこなっている人たちである。しかし、そうではない職業型で働くMSM-SWについてもほとんど調査ができていないため、その実情は明らかではなく、今後、調査を進めていく必要がある。

また、先行研究や今回のインタビューからもわかるように、当然ながら、MSM-SWの性行為はSWだけに囲われている訳ではなく、ハッテン場での性行為やパートナーとの性行為との間にもある。MSM-SWが晒されている健康リスクを考えると、最終的にはそうではないMSMも含めた全体の健康リスクについても考えていくことにもなるであろう。

そして、MSM-SWの現場では、HIV/STI感染予防への十分な配慮に基づいた性行為が行われていたり、あるいは感染リスクの少ない性行為のみが行われていたりする場合もあり、そのような店や個人は、客へのHIV/STIに関する情報提供などの窓口ともなれる可能性がある。

最後に、僅かなインタビュー調査ながら、今回明らかになったことの一つに、AV業界とSW業界との連続性もあった。これは、単にそれらの業界の連続性を見るということだけでなく、MSM-SWの

ネットワークの形成の指摘でもあり、今後の調査や健康リスク低減のアプローチのあり方を検討する上で重要である。

尚、今年度はトランス女性のSWについては調査できなかったが、来年度に進めていきたい。そして最後になるが、MSM-SW やトランス女性-SW へのアプローチには、その問題に取り組んできた当事者・支援者団体あるいは個人との連携が不可避であり、今後、その連携も進めていく予定であることも明記しておきたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

(発表雑誌名巻号・頁・発行年なども記入)

なし

引用文献

1) 東優子, 2012, 『厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 個別施策層 (とくに性風俗に係る人々・移住労働者) の HIV 感染予防対策とその介入効果に関する研究) 平成 21~平成 23 年度 総合研究報告書』

2) Niven H, Jose H, Rawstorne P, Nathan S. 'They love us just the way they love a woman': gender identity, power and transactional sex between men who have sex with men and transgender women in Timor-Leste. *Cult Health Sex.* 2017; 7:1-15

3) Budhwani H, Hearld KR, Hasbun J, Charow R, Rosario S, Tillotson L, McGlaughlin E, Waters J. Transgender female sex workers' HIV knowledge, experienced stigma, and condom use in the Dominican Republic. *PLoS One.* 2017; 2:12(11)

4) Willie TC, Chakrapani V, White Hughto JM. Victimization and Human Immunodeficiency Virus-Related Risk Among Transgender Women in India: A Latent Profile Analysis. *Violence Gend.* 2017; 1:4(4):121-129

5) Fernández-López L, Reyes-Urueña J, Agustí C, Kustec T, Serdt M, Klavs I, Casabona J. The COBATEST network: monitoring and evaluation of HIV community-based practices in Europe, 2014-2016. *HIV Med.* 2018; 19 Suppl 1:21-26

6) Poteat, Ackerman, Diouf, Ceesay, Mothopeng, Odette KZ, Kouanda S, Ouedraogo HG, Simplicie A, Kouame A, Mnisi Z, Trapence G, van der Merwe LLA, Jumbe V, Baral S. HIV prevalence and behavioral and psychosocial factors among transgender women and cisgender men who have sex with men in 8 African countries: A cross-sectional analysis. *PLoS Med.* 2017; 7:14(11)

7) Crosby RA, Salazar LF, Hill B, Mena L. A comparison of HIV-risk behaviors between young black cisgender men who have sex with men and young black transgender women who have sex with men. *Int J STD AIDS.* 2018; Jan

8) Lama JR, Lucchetti A, Suarez L, Laguna-Torres A, Guanira JV, Pun M, et al. Association of Herpes Simplex Virus Type 2 Infection and Syphilis with Human Immunodeficiency Virus Infection among Men Who Have Sex with Men in Peru. *JID.* 2006; 194:1459-1466.

9) Jacobson JO, Sánchez-Gómez A, Montoya O, Soria E, Tarupi W, Chiriboga Urquizo M, et al. A Continuing HIV Epidemic and Differential

Patterns of HIV-STI Risk among MSM in Quito, Ecuador: An Urgent Need to Scale Up HIV Testing and Prevention. *AIDS Behav* Published Online First. Apr 26. 2013

10) Wade AS, Kane CT, Diallo PAN, Diop AK, Gueye K, Mboup S, et al. HIV infection and sexually transmitted infections among men who have sex with men in Senegal. *AIDS*. 2005; 19:2133-2140.

11) Catherine E. Oldenburg,, Amaya G. Perez-Brumer, Sari L. Reisner, and Matthew J. Mimiaga. Transactional sex and the HIV epidemic among men who have sex with men (MSM): Results from a systematic review and meta-analysis. *AIDS Behav*. 2015; 19(12): 2177-2183

12) Grov C, Koken J, Smith M, Parsons JT. How do male sex workers on Craigslist differ from those on Rentboy? A comparison of two samples. *Cult Health Sex*. 2017; 19(4):405-421

13) MacPhail C, Scott J, Minichiello V. Technology, normalisation and male sex work. *Cult Health Sex*. 2015;17(4):483-95

14) Minichiello V, Scott J, Callander D. New pleasures and old dangers: reinventing male sex work. *J Sex Res*. 2013;50(3-4):263-75

15) Verhaegh-Haasnoot A, Dukers-Muijers NH, Hoebe CJ. High burden of STI and HIV in male sex workers working as internet escorts for men in an observational study: a hidden key population compared with female sex workers and other men who have sex with men. *BMC Infect Dis*. 2015; 15:291

16) Cai YM, Song YJ, Liu H, Hong FC. Zhonghua Yu Fang Yi Xue Za Zhi. Factors associated with commercial sexual behavior among men who have sex with men in Shenzhen, China, in 2011-2015. *Zhonghua Yu Fang Yi Xue Za Zhi*. 2016; 6:50(11):943-948 (Translated in PubMed)

17) G Sethi, B M Holden, J Gaffney, L Greene, A C Ghani, and H Ward. HIV, sexually transmitted infections, and risk behaviours in male sex workers in London over a 10 year period. *Sex Transm Infect*. 2006; 82(5): 359-363.

18) Ballester R, Salmeron P, Gil MD, Gomez S. Sexual risk behaviors for HIV infection in Spanish male sex workers: differences according to educational level, country of origin and sexual orientation. *AIDS Behav*. 2012;16(4):960-8

19) Solomon MM, Nureña CR, Tanur JM, Montoya O4, Grant RM, McConnell JJ. Transactional sex and prevalence of STIs: a cross-sectional study of MSM and transwomen screened for an HIV prevention trial. *Int J STD AIDS*. 2015 Oct;26(12):879-86

20) Kristen Underhill, Kathleen M. Morrow, Christopher M. Collieran, Richard Holcomb, Don Operario, Sarah K. Calabrese, Omar Galárraga, 4 and Kenneth H. Mayer. Access to Healthcare, HIV/STI Testing, and Preferred Pre-Exposure Prophylaxis Providers among Men Who Have Sex with Men and Men Who Engage in Street-Based Sex Work in the US. *PLoS One*. 2014; 9(11)

21) Underhill K1, Morrow KM, Collieran C, Holcomb R, Calabrese SK, Operario D, Galárraga O, Mayer KH. A Qualitative Study of Medical

Mistrust, Perceived Discrimination, and Risk Behavior Disclosure to Clinicians by U. S. Male Sex Workers and Other Men Who Have Sex with Men: Implications for Biomedical HIV Prevention. *J Urban Health*. 2015; 92(4):667-86

22) Guadamuz TE, Clatts MC, Goldsamt LA. Heavy Alcohol Use Among Migrant and Non-Migrant Male Sex Workers in Thailand: A Neglected HIV/STI Vulnerability. *Subst Use Misuse*. 2018; 20:1-8

23) Tan D, Holloway IW, Gildner J, Jauregui JC, Garcia Alvarez R, Guilamo-Ramos V. Alcohol Use and HIV Risk Within Social Networks of MSM Sex Workers in the Dominican Republic. *AIDS Behav*. 2017; 21(Suppl 2):216-227

24) Gary Yu, Michael C. Clatts, Lloyd A. Goldsamt, Le Minh Giang. Substance Use among Male Sex Workers in Vietnam: Prevalence, Onset, and Interactions with Sexual Risk. *Int J Drug Policy*. 2015; 26(5): 516-521.

25) Catherine E. Oldenburg, Amaya G. Perez-Brumer, Katie B. Biello, Stewart J. Landers, JD, Joshua G. Rosenberger, David S. Novak, Kenneth H. Mayer, Matthew J. Mimiaga. Transactional Sex Among Men Who Have Sex With Men in Latin America: Economic, Sociodemographic, and Psychosocial Factors. *American Journal of Public Health*. 2015; Vol 105, No. 5.

26) Klingelschmidt J, Parriault MC, Van Melle A, Basurko C, Gontier B, Cabié A, Hoen B, Sow MT, Nacher M. Transactional sex among men who have sex with men in the French Antilles and French Guiana: frequency and associated factors. *AIDS Care*. 2017; Jun;29(6):689-695

27) 地域において HIV 陽性者と薬物使用者を支援する研究班, 2017, 『平成 29 年度 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業「LASH 調査」報告書』